

<日本体育・スポーツ経営学会フォーラム（2011.12.17開催）での議論を踏まえ>

基本的な構成の修正案－国民にとって分かりやすいスポーツ推進基本計画にするために－ 木村

※スポーツの定義・両面性、競技団体のガバナンス、自治体のスポーツ基本計画（促進）、国のスポーツ推進会議、好循環および財源については前文で触れる。

	ヒューマン			ソフト			ハード			障害者スポーツ、女性の参加、格差問題等への取り組み		
	国	自治体	団体	国	自治体	団体	国	自治体	団体	国	自治体	団体
1. 子どもの運動遊び、体育、スポーツ環境の整備、充実（概ね幼児から高校生）	教員資質向上 小学校体育コーディネータ 地域スポーツ指導者（外部指導者） 少年スポーツ指導者			幼児の運動遊び スポーツ少年団 学校全体での取り組み 運動部活動 体力向上プログラム 学外スポーツ活動			各種公園 学校体育施設 学校開放、地域共同利用化 芝生化 耐震化			平等・安全なスポーツ機会の保障 体罰・ハラスメント防止		
2. 生涯スポーツ社会の実現（大学生から高齢者まで） または、 誰もが、身近にスポーツに親しむ環境の整備、充実  ※競技スポーツを含む	クラブマネジャー 地域スポーツ指導者 スポーツ推進委員 ボランティア 自治体スポーツ行政専門職			総合型地域スポーツクラブ 拠点クラブ 体育の日イベント 全国スポレク祭 国民体育大会 マスターズ大会 スポーツツーリズム 見る環境としてのプロスポーツ			地域（公共）スポーツ施設 活動拠点 クラブハウス 民間スポーツ施設 広域スポーツセンター			バリアフリー 全国障害者スポーツ大会		
3. トップアスリートの育成、支援	アスリート（プロプレーヤーを含む） コーチ トレーナー 審判 スポーツ科学者			オリンピック タレント発掘 一貫指導プログラム 国際大会誘致 アンチ・ドーピング スポーツ仲裁機構 キャリア支援 企業スポーツ スポーツ医・科学系学会、研究機関			JISS (NAASH) NTC 国際大会開催可能スタジアム・アリーナ 体育・スポーツ系大学施設			女性指導者の育成・支援 パラリンピック		

※トップアスリート 国際レベルの大会に出場し、国民の模範となる競技者。

※原則一つの固有名詞は最も関係の深い一つのセルにだけに記述した。例えば、スポーツ医・科学系学会は、1と2にも関係している。